



鶴望野 だより

2021年 第143号

発行元：社会医療法人長門英記念会 介護老人保健施設 鶴望野 〒876-0835 大分県佐伯市鶴岡町1丁目11番59号

謹賀新年



あけましておめでとうございます。昨年の新年のご挨拶は医療経済に関する話題を取り上げた記録が残っております。

世の中の事は、一寸先は闇だとよくわかりました。もっとも一昨年暮れには昨年一年の予兆はありましたが、これほどの事態が待ち受けていたとは思えなかったでしょう。其れにしても医療崩壊が目の前に迫ってあるとは驚きです。

ただ私たちの医療機関には優秀な若い医師が揃っていますので、大きな問題はないと思います。国はしきりにデジタル医療、デジタルサイエンス、テラーサイエンスの推進を叫んでおります。

AIデジタル医療を導入して集中治療専門医、支援センター専門医の配置を企画しつつあります。そうすることで医療崩壊を防ぐ必要は有る様に思います。

古い昔の話ですが、昭和二十年代、佐伯には法定伝染病患者のため、隔離治療の収容避病院が設置されておりました。海外からの帰還者が持ち帰った、腸チフス、パラチフス発疹チフスといった患者さんが収容治療されましたが、その後、唯一の公立病院の改築とともに解体廃棄されました。

それから半世紀以上を経た今、私たち鶴望野は、入所高齢者のウィルス感染をあらゆる努力で防ぎ、老人たちの平穏を守るという使命を全うする機軸みたいと思っておりますので、今年一年宜しくお願い申し上げます。



2021 謹賀新年

令和三年 元旦
介護老人保健施設 鶴望野
施設長 松下 哲一郎



正月行事



例年、年末に餅つきを行いました。昨年は「コロナウィルスの影響もあり餅つきを行う事が出来ませんでした。しかし、少しでも正月気分を味わって貰う為にしめ縄作りをしました。しめ縄は編める方にはご自身で編んで頂いたのですが手際よくしめ縄を作っていました。飾りをとれにしようかと悩まれていたが雨や松ぼっくり、水引き等を飾り付けてそれぞれのしめ縄が完成です。

今年もコロナウィルスの影響があるかと思いますが出来る行事を行っていき少しでも利用者様方に楽しんでほしいとおもいます。

職員紹介

9月に和の風から異動してきた小野隼史です。写真では上手く笑えていませんが笑顔で元気に頑張っています。宜しくお願い致します。

10月から勤務させて頂いている渡邊浩二です。以前は「花みずき」で勤務しておりましたが宜しくお願い致します。

以前、長門記念病院にて勤務しておりその後、別の医療機関に勤務していました。縁あって1月から勤務することになりました。宜しくお願い致します。



看護師 相馬千登世



准看護師 渡邊浩二



理学療法士 小野隼史

風船大作戦



昨年の11月と12月の2階、3階それぞれで風船バレーを実施しました。感染症対策として階ごとに人数で行っています。

なかなか集まってくリーエーションをする機会が少なくなっていたので皆さん始まる前からやる気満々でした。風船バレーが始まると皆さん風船に集中して目で追いつながら目の前に来るとしっかりと打ち返していました。やる気が先に立ち椅子から立ち上がり打ち返す方もあり大いに盛り上がり楽しんで頂けたかと思っております。



→明けまして、おめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスの影響で生活スタイルが大きく変わり、年が明けて益々感染者が増加しています。幸い佐伯では大きく感染者が増えてはいない様ですが、まずは自分自身が感染して施設に持ち込んでしまわないように引き続き気を付けて生活していこうと思います。 Y・Y

後編集